

ナイジェリア

Federal Republic of Nigeria

	2010年	2011年	2012年
①人口:1億6,475万人(2012年)			
②面積:92万3,769km ²			
③1人当たりGDP:1,631米ドル (2012年)			
④実質GDP成長率(%)	8.0	7.4	6.6
⑤消費者物価上昇率(%)	13.7	10.8	12.2
⑥失業率(%)	21.1	23.9	n.a.
⑦貿易収支(100万ナイラ)	6,361,380	9,547,713	16,821,450
⑧経常収支(100万米ドル)	13,420	8,761	17,742
⑨外貨準備高(100万米ドル)	34,919	35,212	46,405
⑩対外債務残高(100万米ドル)	4,579	5,667	6,527
⑪為替レート(1米ドルにつき、ナイラ、期中平均)	150.3	154.7	156.8

【注】2012年の①③～⑤⑧⑩は推計値。

【出所】①⑤⑧:IMF(WEO), ②④⑥⑦:ナイジェリア連邦統計局, ⑩:ナイジェリア中央銀行, ③⑨⑪:IMF(IFS)

■農業・石油産業など主要産業が不調

ナイジェリア連邦統計局によると、2012年の実質GDP成長率は6.6%だった。通信業(前年比31.8%増)、建設業(12.6%増)、ホテル・レストラン業(12.2%増)などが前年に引き続き好調であったことから、非石油部門は全体で7.9%増と堅調に推移した。ただし、国内各地での洪水の発生や北部地域での治安悪化を受け、GDP全体の約3割を占める農業(4.0%増)は伸び悩んだ。

一方、GDP全体の約4割を占める石油部門は0.9%減とマイナス成長となった。中央銀行によると、原油生産量は、2012年上期は日量209万バレル(前年同期214万バレル)と振るわず、第3四半期に日量226万バレル(同213万バレル)と持ち直したものの、第4四半期に再び日量200万バレル(同226万バレル)と落ち込むなど、不安定に推移した。国内の石油施設の破壊行為が相次いだことや、シェールオイルの生産量が増加した米国向けが縮小したことが要因だ。また、新規油田の開発権や石油販売権の付与をめぐる透明性の確保などを目的とした石油産業法案が成立せず、石油関連産業への投資が控えられていることも影響した。

■輸出は軒並み増加、輸入は大幅減

ナイジェリア連邦統計局によると、2012年の輸出(通関ベース)は前年比15.5%増の22兆4,463億ナイラ、輸入は43.1%減の5兆6,249億ナイラとなった。輸入が減少した理由として政府は、植物油、繊維製品、セメントなど一部製品の国内生産が拡大し、輸入依存率の低下に貢献したからだとしている。また、経済成長の伸びが鈍化したを受け、国内需要が一部縮小したことも一因としている。

輸出では、全体の約7割を占める原油が、価格上昇を受け11.5%増と増加した。一方、非石油部門では、プラス

チック・ゴム生産品が35.9%増、加工食品・飲料品が3.4倍と大幅に伸び、輸出全体に占める割合もそれぞれ7.1%(前年6.1%)、3.4%(1.2%)に拡大した。

輸入においては、主要品目が軒並み減少した。機械・電気機器・同部品(構成比22.8%)は33.3%減、輸送機器・同関連品(19.8%)は7.4%減となった。また、加工食品・飲料品および鉱物性生産品がそれぞれ72.6%減、83.2%減と大幅に減り、輸入全体に占める構成比は7.0%(前年14.5%)、3.2%(10.7%)にまで低下した。

国別にみると、輸出では米国(構成比17.7%、前年比9.4%減)が引き続き、最大の相手国であった。地域別ではオランダ(7.7%、4.1倍)や英国(6.6%、22.3%増)を中心とした欧州(36.7%、44.9%増)向けが最も多く、中国(4.2%、2.4倍)や日本(0.5%、83.2%増)を含むアジア(19.4%、40.7%増)向けや西アフリカ諸国経済共同体

表1 ナイジェリアの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ナイラ, %)

	2011年	2012年		
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出総額(FOB)	19,440,357	22,446,320	100.0	15.5
鉱物性生産品	17,335,631	18,867,975	84.1	8.8
原油	13,935,861	15,531,899	69.2	11.5
プラスチック・ゴム生産品	1,177,508	1,599,852	7.1	35.9
加工食品・飲料品	224,435	764,153	3.4	240.5
輸送機器・同関連品	198,320	278,357	1.2	40.4
動物性生産品	24,564	245,139	1.1	898.0
輸入総額(CIF)	9,892,644	5,624,870	100.0	△43.1
機械・電気機器・同部品	1,924,347	1,283,341	22.8	△33.3
輸送機器・同関連品	1,199,897	1,111,419	19.8	△7.4
植物性生産品	1,169,725	577,193	10.3	△50.7
ベースメタル・同関連品	604,699	520,298	9.2	△14.0
化学工業生産品	510,088	450,194	8.0	△11.7
加工食品・飲料品	1,430,198	391,182	7.0	△72.6
プラスチック・ゴム生産品	659,753	317,732	5.6	△51.8
動物性生産品	567,445	298,764	5.3	△47.3
鉱物性生産品	1,059,121	178,310	3.2	△83.2

【出所】ナイジェリア連邦統計局

(ECOWAS) (3.9%, 57.2%増)を中心とするアフリカ(9.4%, 4.5%増)向けも拡大した。

輸入では、中国(構成比21.5%, 前年比17.2%減)が3年ぶりに米国(13.6%, 57.0%減)を抜き最大の相手国となった。主要国では英国(6.6%, 40.8%増)のみが増加し、それ以外の欧州諸国向けなどは軒並み減少した。ブラジル(8.0%, 18.1%減)も同様に減少した。

■ 直接投資は引き続き増加傾向

中央銀行によると、2012年の対内直接投資額(ネット、フロー)は、国際収支ベースで70億2,884万ドル(前年比11.6%増)だった。

農業・食品分野では、シンガポールの農産物商社オラム・インターナショナルが2012年2月、地場製菓大手のティタニウム・ホールディングを1億6,700万ドルで買収した。同社はまた、2012年6月に日用品・飲料の地場大手カヤス・エンタープライズを6,650万ドルで買収した。南アフリカ共和国(以下、南ア)の食品大手タイガーブランズは、10月に小麦製品メーカーであるダンゴテ・フラワー・ミルズを1億8,500万ドルで買収した。

石油・ガス分野では、オーストラリアのジャッカ・リソースが2012年4月、油田OML113の権益5%の取得取引を完了させた(1,600万ドル)。カナダのエグザイル・リソースは7月にオアンドから探鉱・生産部門を728万ドルで買収した。鉱業分野では、2月にオーストラリアのエナジオが、鉄鉱山企業KCMマイニングの株式25%を263万ドルで取得し、同月、残りの株式75%をオーストラリアKCMHから取得し、完全子会社化した。

物流部門では2013年4月に、南アの物流大手インペリアルがオランダの子会社インペリアル・モビリティ・インターナショナルを通じて、MDSロジスティクスの株式49%を2,668万ドルで取得した。

卸・小売業では、南アのショップライトが、2012年6月に首都アブジャにナイジェリアで5店舗目となるスーパーマーケットを、11月には南中部クワラ州イロリンに6店舗目を開店した。また、同じ南アのノヴァーレ・エクイティ・パートナーズが出資するモーリシャス証券取引所上場のノヴァーレ・アフリカ基金は、6月にグラント・タワーズ・アブジャ・モールをオープンさせた(同モールの売り場面積は8,300平方メートル、店舗数42、駐車スペース350台)。流通業界では、高中所得層の取り込みを図る企業間の競争が加速している。

ホテル・レストラン業では、2012年8月に米ドミノ・ピザが、フランス系地元資本のイト・ン・ゴーをフランチャイズ総代理店として最大商業都市ラゴスに初進出した。9月には米アイスクリーム大手コールド・ストーン・クリーマリーが、ア

イビーブリッジ・トレーディングと10年間のフランチャイズ総代理店契約を締結してナイジェリア進出を決めたと発表した。2012年11月には、米マリオット・インターナショナルが、銀行出身のナイジェリア人実業家ジム・オビア氏が経営するカンタム・ラグジュアリー・プロパティーズと組み、2014年にラゴスにホテルを開業する計画を発表した。

■ 日本による LNG 輸入が引き続き増加

日本の貿易統計をドル換算すると、2012年の日本のナイジェリアへの輸出は6億2,835万ドル(前年比0.9%増)と微増した。一方、ナイジェリアからの輸入は47億8,359万ドルと2.9倍となり、前年に引き続き日本側の貿易赤字となった。

日本の輸出は、バス(構成比18.4%, 前年比47.0%増)が好調で、乗用車(11.7%, 3.0%増)や貨物車(2.4%, 4.1%増)も堅調に推移したことで、輸送機器が増加した(35.6%, 18.9%増)。他方、鉄鋼(19.9%, 13.0%減)や一般機械(11.7%, 12.7%減)は減少した。

輸入は、日本国内の原子力発電所の停止で火力発電用の液化天然ガス(LNG)需要が高まったことを受け、LNG(構成比86.0%)が前年比3.0倍と前年に引き続き飛躍的に伸びた。また、原油(10.0%)も2.3倍と増加し、石油・ガス関連品目が全体の96%以上を占めた。

日本企業による投資事例では、2012年6月にNECが情報通信事業の強化を図るため現地法人を設立した。サンヨー食品は2013年5月に、オラム・インターナショナルと即席麺生産を行う合弁会社の設立を発表した。合弁会社の株式25.5%を2,000万ドルで取得する予定。また、豊田通商は2013年5月、買収したフランスのアフリカ専門商社CFAOが、世界小売大手カルフルとナイジェリアを含むアフリカ8カ国において小売事業を行うことで合意し、フランチャイズ契約を結んだと発表した。

表2 日本の対ナイジェリア主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル, %)

	2011年	2012年		伸び率
	金額	金額	構成比	
輸出総額(FOB)	623	628	100.0	0.9
輸送機器	188	224	35.6	18.9
バス(10人以上輸送自動車)	79	116	18.4	47.0
乗用車	71	73	11.7	3.0
貨物車	14	15	2.4	4.1
モーターサイクル	15	11	1.8	△ 21.8
鉄鋼	144	125	19.9	△ 13.0
一般機械	84	74	11.7	△ 12.7
合成繊維の長繊維のトウ	49	52	8.3	7.5
ゴム製品	28	34	5.4	23.7
輸入総額(CIF)	1,672	4,784	100.0	186.1
液化天然ガス(LNG)	1,359	4,113	86.0	202.6
原油	208	480	10.0	130.5
ゴマ(採油用のもの)	62	66	1.4	6.9

[出所] 財務省「貿易統計(通関ベース)」から作成